さて突騎施に於て所謂回鶻文字の用ひられた時代には、回鶻部は漠北オルホン河谷の地に據りて尚いまだ天山地方には移らず、而してその書記に於ては突厥文字を使用し、まだ回鶻文字を用ひた證跡の存しないこと上述の通りである。かゝれば此の文字は回鶻人が使用するに先立ちて既に存し、他のトルコ族によりて使用せられたもので、回鶻人は高昌地方に移るに及んで、從來用ひた突厥字を棄てゝ初めて之を用ゐるに至つたに相違ないと思はれる。されば回鶻文字といふ名稱は回鶻人の創成した文字、もしくは回鶻人の間に初めて行はれた文字といふ意味に解する事は出來ない次第である。一體此の名稱は自分の知る所では蒙古時代に普通行はれ、カルピニやルブルキーの旅行記にも見え、またラシッド・ウドヂンの歴史[33]や、元史塔塔統阿傳、蒙韃備錄、高昌偰氏家傳などにも皆其の名を載せて居るが、之は蒙古で當時畏吾兒即ち回鶻に行はれた文字を用ゐたので特に其の名を喧傳したものと思はれる。然も回鶻自身は之を何と稱したかは全く解らない。之を例へば吾々の使用して漢字と稱するものが、更に吾々の手を通じて他に傳へられたとした場合に、之を受けついだものが其の源流に關係なく、たゞ日本字と稱したと同一の場合であつたかと思ふ。要するにこれを回鶻字と稱することは回鶻の高昌地方に移つて之を使用するに至りしより後の時代、即ち九世紀の後半期に於て始めて承認し得べきことで、その以前の同一の文字に對しては勿論不都合である。

回鶻文字の性質と名稱とを此の如く考へ定めた時に、前に引いたラドロフ氏の「回鶻文字で書いてあるから回鶻語と稱し」、其の他の學者も同樣に考へて居ることが、如何に薄弱の理由に基くものであるかを知ることが出來よ